



シナプス

～園長室だより～



令和2年3月



体育館（遊戯室）が完成しました！

■卒園・進級おめでとうございます！

平成から令和元年、そして令和2年と時間がギュッと凝縮された1年のような印象がありますが、今年度も残りわずかという所での新型コロナウイルスの感染拡大により、思わぬ事態となりました。

見えない敵だけに、感染予防にも難しいものがありますが、物が溢れ、VR(バーチャルリアリティ)や仮想通貨、目に見えつつも非現実的な世界が拡がりつつある世の中に警鐘が鳴らされているような気がします。

「令和」とは「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味があり、まさに現在(いま)、心を寄せ合い、この国難に立ち向かう時ではないかと感じていますし、今回の当園自粛要請で気づかされたことがあります。それは、幼稚園における教育力の限界です。幼稚園という所は、子どもたちが通って初めてその力を発揮します。約半年に渡り、改築工事を行った「体育館」も無事完成しました。なんとか年長児が卒園するまでにと取り組み、これからという時の休園に愕然としましたが、様々な仕掛けや創意工夫を子どもたちの笑顔を思い浮かべながら考えたことが、この瞬間に活かされていなかったことが本当に残念ですし、無力感を感じます。毎日の体育ローテーションや言語日課活動もみんなが通ってくれるからこそできることであり、改めて、幼稚園のできることの限界を感じている所です。

同時に気付かされたのが、自宅待機による「家庭の教育力」です。想定外の突然の長期休暇に戸惑われた方も多いと思います。特にお仕事をお持ちの方は尚更だと思いますが、園にも子育て真っ最中の職員もいますので、その大変さは身に染みてわかります。

だからこそ、こういった時に「家庭の教育力」が問われます。「家

庭の教育力」の一つに『健全な発達に必要な「体験・経験」が日常の家庭生活に豊かにあるかどうか』があります。もちろん、習い事の多さや勉強ができるできないということではありません。日々の会話や保護者(大人)の対応、しぐさ、子どもたちが日常の中でもワクワクするような、前のめりになって興味関心を抱くような環境作り、はたまた子どもたちが現在何に興味を持っているのかに対する気づきと支援が大切ではないかと思ったり、子どもたちを見る多様な視点が重要になってきます。だからこそ、各ご家庭と園とが、互いに足りない部分を補い合いながら、心寄せ合い、子どもたちにとってより良い教育環境を作ればと思います。

面白いデータ(日本教育新聞 2019/10/28 掲載)もありました。いわゆるこれからの時代「創造性」が大切なことは言うまでもありませんが、「創造志向と幸福度」の相関関係を日本とアメリカの20代の若者で調べたところ、アメリカでは創造性が高いほど幸福度が高いのに、日本はその反対で、創造性が高いほど幸福度が低くなるという結果がでました。つまり、標準(型)から外れることを歓迎しない日本文化がそうさせているのかもしれない。出る杭は打たれるではありませんが、多様性の時代だけに、型を外れた創造的なやり方を貫き通そうとするほど自尊心を打ち砕かれる社会のあり様を見直す時期にきているのかもわかりません。

「不易と流行」ではありませんが、日本の古き良き文化を守りつつ、現代に必要な多様な文化や事象に柔軟に対応していく力が必要で、子どもたちがこれからの難しい時代を生きていく為に必要な力を常に考えつつ、明日への希望と共に、それぞれが大きな花を咲かせてくれることを願ってやみません。

この度は卒園・進級、誠におめでとうございます。園長野口大仁